

2015. 5【vol.54】

水レター「びわ湖・よど川」

独立行政法人水資源機構 関西・吉野川支社淀川本部 発行

水資源機構全体の取り組みや関西管内における情報のほか、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を、水レター「びわ湖・よど川」により、関係機関の皆様にお知らせします。

(組織統合に伴い、これまで関西支社管内と称していたものは、関西管内と称し、当誌に記載します。)

index

- | | |
|-------------------------|------|
| 1. 関西・吉野川支社長 新任ご挨拶 | 1 p |
| 2. 関西支社と吉野川局の統合について | 2 p |
| 3. 関西管内の水源地状況と気象 | 3 p |
| 4. 関西管内の主な出来事 | 7 p |
| 5. 利水者をはじめとする関係者の皆様へ | 8 p |
| 6. 独立行政法人通則法の改正 | 8 p |
| 7. 川上ダム事業実施計画(第3回変更)の認可 | 10 p |
| 8. 施設見学会のご案内 | 10 p |
| 9. 国際大ダム会議で口頭発表決定 | 11 p |
| 10. 関西・吉野川支社淀川本部職員の異動情報 | 12 p |



水がささえる豊かな社会



独立行政法人 水資源機構

1. 関西・吉野川支社長 新任ご挨拶



琵琶湖・淀川水系の関係府県及び関係利水者の皆様、こんにちは。4月1日付けで関西・吉野川支社長として着任致しました、神矢 弘（かみや ひろし）と申します。皆様方には日頃より、私ども水資源機構の業務に対し格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度、水資源機構では従来の関西支社と吉野川局を統合する組織改編を実施し、新たに関西・吉野川支社を発足させました。従来の関西支社については事務所を大阪市内の今の位置のままとし、支社長の下に、副支社長が本部長を務める淀川本部を設置して、昨年度までの関西支社業務を引き継ぐ形となりました。これらの詳細につきましては、本「水レター」の2ページ目「2. 関西支社と吉野川局の統合について ～平成27年4月1日より、関西支社の名称と組織が変わりました～」をご覧ください。

このように組織・名称は若干変わりましたが、我が社が掲げる「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念の下、皆様方のご理解をいただきながら、高山・青蓮寺・室生・一庫・布目・日吉・比奈知の各ダム、琵琶湖開発施設、正蓮寺川利水施設、初瀬水路及び淀川大堰の管理事業と、川上ダム及び丹生ダムの建設事業に取り組み、琵琶湖・淀川流域における用水の安定供給と治水対策に日々努めていく姿勢には全く変わりありません。

私も、関西での勤務は連続6年目、通算約12年を数えます。もとより微力ではありませんが、これまで培ってきた経験を活かしつつ、職員とともに皆様方のために頑張りたいと存じます。どうか引き続き、水資源機構の業務にご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成27年4月1日

関西・吉野川支社長 神矢 弘

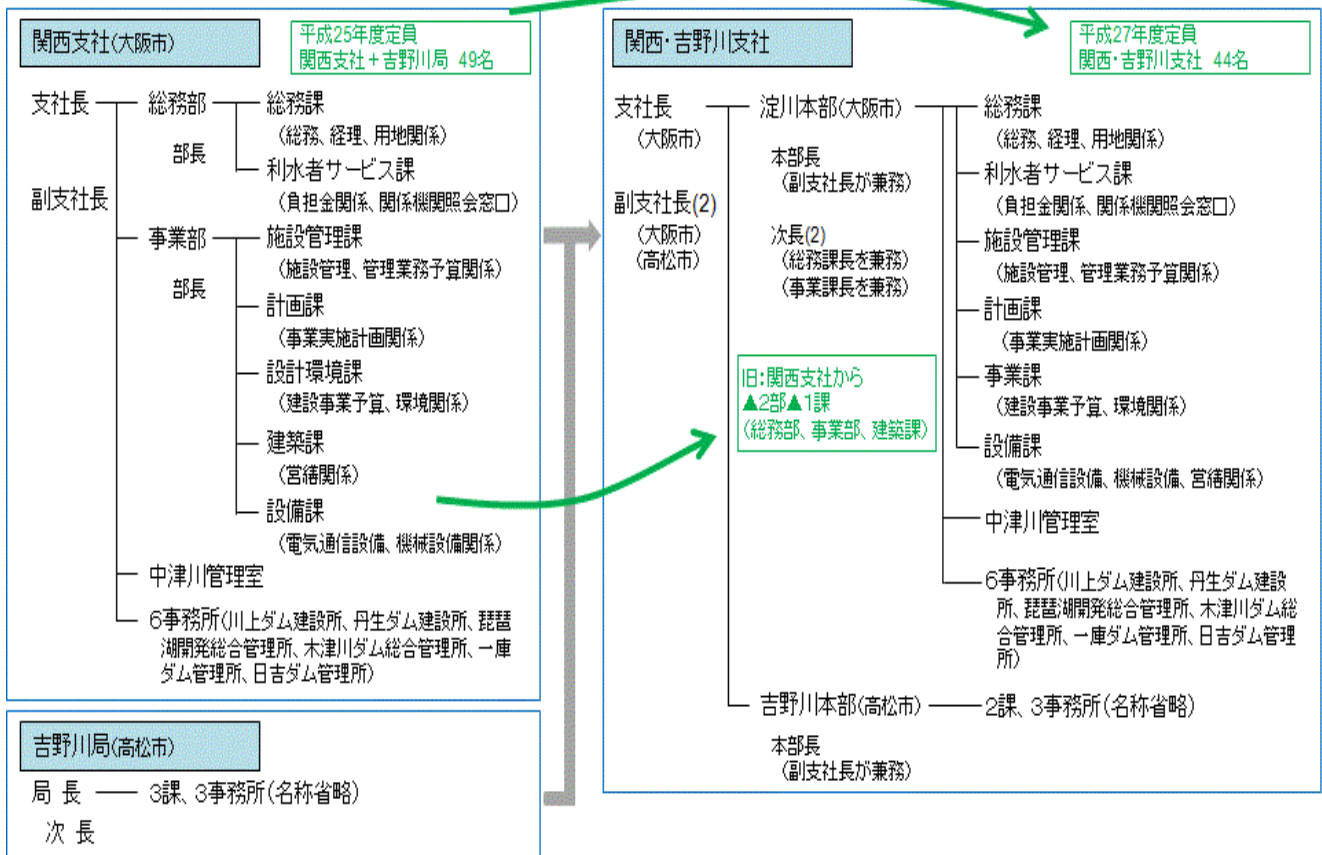
2. 関西支社と吉野川局の統合について ～平成27年4月1日より、関西支社の名称と組織が変わりました～

平成25年12月24日の閣議において、「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」が決定されました。この閣議決定の中で、水資源機構について講ずべき措置のひとつとして、「本法人の吉野川局について、その機能を維持しつつ、関西支社との組織統合の実現のため、利水者及び関係府県との調整を行う。」とされており、この閣議決定に従い、当機構では関西支社と吉野川局との組織統合に向けて検討を進めてまいりました。

今般、当機構は、組織のスリム化及びコスト縮減を目的として、関西支社と吉野川局を統合し、下記のとおり平成27年4月1日より関西・吉野川支社を発足させました。

具体的には、関西・吉野川支社に淀川本部と吉野川本部を置き、旧関西支社の業務を淀川本部（大阪府大阪市）で、旧吉野川局の業務を吉野川本部（香川県高松市）にて行います。この統合により、平成27年度の定員については、平成25年度と比較して1割減となりました。

皆様方からの当機構に対する期待に一層的確に答えられるよう、新しい体制のもと、引き続き、効率的な業務運営に努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



3. 関西管内の水源状況と気象

(1) 関西管内の水源状況 (2015年5月)

関西管内の各ダム流域における今年5月の水源状況は次のとおりです。

降水量は、いずれも平年より少ない状況です。

貯水率は、高山ダム、比奈知ダムを除き平年値を上回っている状態です。また、ダムにおいては洪水期(6/16~10/15)に向けて、洪水調節容量確保のため貯水位低下操作(「ドローダウン」といいます。)を行っております。ドローダウンは、6月15日までに洪水期間中の上限水位(洪水貯留準備水位)に達するまで下流に危険が生じないよう配慮しながら、流入量より放流量を増やし貯水位を下げる操作です。

(5月28日9:00時点)

施設名	所在地 (予報区)	ダム地点降水量		ダム貯水率	
		(mm)	(平年値)	(%)	(平年値)
高山ダム	京都府山城南部	88	141	41.5	50.1
青蓮寺ダム	三重県伊賀	61	130	85.0	83.6
室生ダム	奈良県北東部	71	129	80.6	72.5
布目ダム	奈良県北西部	82	141	82.1	81.2
比奈知ダム	三重県伊賀	61	129	71.0	72.3
一庫ダム	兵庫県阪神	127	140	67.6	63.0
日吉ダム	京都府南丹・京丹波	91	117	65.5	59.5
琵琶湖	滋賀県全域	88	179	BSL+0.07m	BSL+0.06m

※降水量の平年値は、5月1日~31日の月間雨量の平均値です。

※貯水率の平年値は、当該日の値です。

(2) 関西管内の水源状況の見とおし

気象庁の予測では、6月は雨が少なく、7月は梅雨前線の影響を受け雨の日が多くなるとの見とおしとなっています。

各ダム流域においても、6月まで雨の少ない状況であれば、ドローダウン後一時的に貯水量が減少することとなりますが、7月に入り降雨の影響による貯水量の回復が期待できます。下流に必要な農業用水、都市用水等を確保した上で、ダムの貯水位を維持するよう運用に努めて参ります。

(3) 関西管内水源情報について

関西管内における各ダムの貯水状況、補給状況等詳細情報は、関西・吉野川支社淀川本部ホームページの水源情報に掲載しておりますのでどうぞご覧下さい。

水資源機構関西・吉野川支社淀川本部HPアドレス

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/html/suigen/suigen.html>

(参考) 気象情報 (大阪管区気象台HPより抜粋)

①近畿地方の天候 (2015年4月)

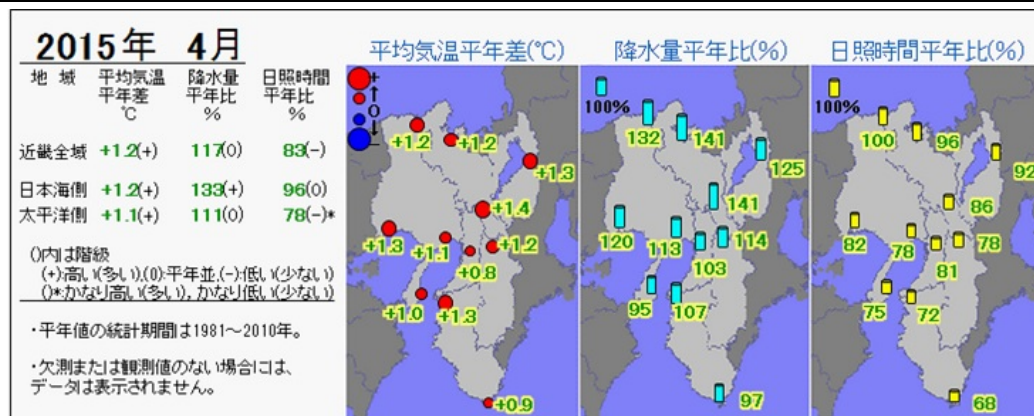
上旬から中旬にかけては、高気圧に覆われた晴れた日もありましたが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

上旬 高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、期間の中頃は太平洋側で大雨となった所がありました。また、8日は強い寒気の影響で、日本海側の山間部を中心に雪の降った所がありました。

中旬 高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、期間の終わりは太平洋側で大雨となった所がありました。

下旬 高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、期間の終わりは上空の寒気と日射の影響で大気の状態が不安定となり、太平洋側では大雨となった所がありました。近畿地方の降水量は1961年の統計開始以来4月下旬として少ない方からの2位となりました。

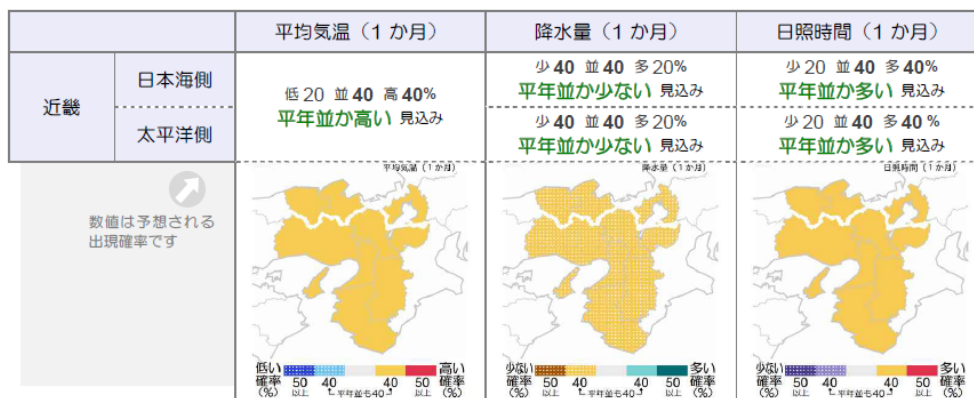
	上 旬		中 旬		下 旬	
	気 温	降水量	気 温	降水量	気 温	降水量
日本海側	高	かなり多	平年並	かなり多	かなり高	かなり少
太平洋側	高	多	平年並	多	かなり高	かなり少



②近畿地方の天候の見とおし (大阪管区気象台HPより抜粋)

1ヶ月予報 (5月23日から6月22日まで)

期間の後半を中心に低気圧や前線の影響を受けにくいため、降水量は平年並みか少ない見込みです。

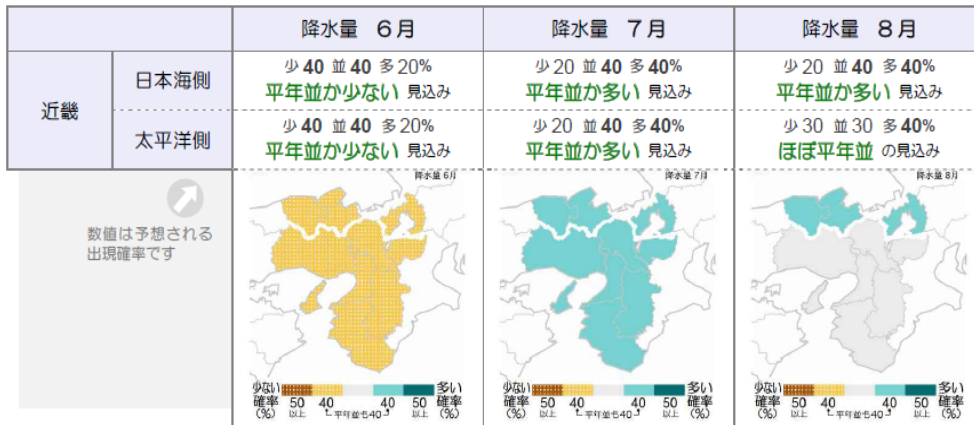


3ヶ月予報（6月から8月まで）

6月 梅雨前線は平年より南に位置し、北上が遅れる予想のため、平年に比べ曇りや雨の日の少ない見込みです。

7月 梅雨前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

8月 日本海側では、前線の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。太平洋側では、高気圧に覆われやすく、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。



流域・水源の雨量・貯水量一覧表

2015年5月28日 9時00現在

ダム名	水位		貯水量				流量		補給量(※1) (過去3ヶ月:2月~4月)					雨量(ダム地点)(※2) (過去3ヶ月:2月~4月)					
	貯水位 (標高m)	貯水量 (万m3)	貯水率 (%)	平年 貯水量 (万m3)	平年 貯水率 (%)	貯水量 平年比率 (%)	ダム流入量 (m3/s)	ダム放流量 (m3/s)	当日9時の 補給量 (m3/s)	H27累計補 給量(過去 3ヶ月)(万 m3)	平年ダム累 計補給量 (過去3ヶ月) (万m3)	補給量平年 比率(N)(過 去3ヶ月)	H27.5月補 給量(1日~ 27日)(万m3)	平年5月月 間補給量 (万m3)	H27累計 雨量 (過去3ヶ月) (mm)	平年累計 雨量 (過去3ヶ月) (mm)	雨量平年 比率 (過去3ヶ月) (%)	H27.5月 雨量 (1日~27日) (mm)	平年5月 月間雨量 (mm)
高山ダム	121.31	2,041	41.5	2,463	50.1	82.9	7.42	12.96	5.5	1,235	527	234.3	1,308	1540	329	279	117.9	88	141
青蓮寺ダム	273.85	1,623	85.0	1,596	83.6	101.7	0.14	2.02	1.9	116	98	118.4	191	234	288	259	111.2	61	130
室生ダム	292.71	1,072	80.6	964	72.5	111.2	0.06	2.62	2.6	72	85	84.7	214	287	334	263	127.0	71	129
布目ダム	281.19	1,043	82.1	1,032	81.2	101.1	0.08	1.20	1.1	91	121	75.2	137	154	322	259	124.3	82	141
比奈知ダム	294.41	1,086	71.0	1,106	72.3	98.2	0.51	1.76	1.3	132	46	287.0	301	295	294	241	122.0	61	129
一庫ダム	140.88	1,813	67.6	1,689	63.0	107.3	0.98	2.82	1.8	434	162	267.9	480	521	285	254	112.2	127	140
日吉ダム	183.78	2,357	65.5	2,141	59.5	110.1	3.93	10.10	6.2	533	245	217.6	732	1070	236	230	102.6	91	117

湖沼名	水位(※3)			雨量(※4) (過去3ヶ月:2月~4月)				
	(BSL)	平年 水位 (m)	平年値 との差(m)	H27累計 雨量 (過去3ヶ月) (mm)	平年累計 雨量 (過去3ヶ月) (mm)	雨量平年 比率 (過去3ヶ月) (%)	H27.5月 雨量 (1日~27日) (mm)	平年5月 月間雨量 (mm)
琵琶湖	0.07	0.06	0.01	375	341	110.1	88	179

※ 貯水率は、10月16日より非洪水期の利水容量で計算しております。

※ 関西管内7ダムにおいて、洪水期(6/16~10/15)に向けての水位低下操作を行っております。

水位低下操作は6/15までに洪水期間中の上限水位(洪水許容準備水位)に達するよう。

下流に支障が生じない範囲で流入量に上乗せして貯水位を下げる操作を行います。

今後、順次各ダムにおいて水位低下操作を実施していきます。

※ 水位(琵琶湖を除く)、貯水量、流量は当日9時のデータです。琵琶湖水位は当日6時のデータです。

※ 補給に関する累計補給量・当日までの補給量・月補給量は日平均値(前日18時から当日0時の累計)より算定しております。

※ 補給量は、洪水調節時のダム調節量を控除し、(日平均ダム放流量-日平均ダム流入量)で計算しております。

当日9時の補給量は瞬時値として当日9時における流入量と放流との差で表しております。

※ 雨量に関する累計雨量・当日までの雨量・月雨量(琵琶湖を除く)は日雨量(前日18時から当日0時の累計)より算定しております。

琵琶湖雨量に関する累計雨量・当日までの雨量・月雨量は日雨量(前日7時から当日6時の累計)より算定しております。

※ 補給量、雨量(琵琶湖を除く)の平年累計値は平成11年4月以降(7ダム管理開始)からのデータを使用しております。

琵琶湖雨量の平年累計値は平成4年4月以降からのデータを使用しております。

流域名	雨量(※5) (過去3ヶ月:2月~4月)				
	H27累計 雨量 (過去3ヶ月) (mm)	平年累計 雨量 (過去3ヶ月) (mm)	雨量平年 比率 (過去3ヶ月) (%)	H27.5月 雨量 (1日~27日) (mm)	平年5月 月間雨量 (mm)
枚方上流域	328	253	129.4	94	167
桂川流域	353	256	137.9	115	164
宇治川流域	306	247	123.9	105	159
木津川流域	269	198	135.9	82	155
猪名川流域	272	242	112.4	113	147

※ 暫定値であり数値は変動する場合があります。

※ 雨量の平年累計値は平成6年からのデータを使用しております。(20年間)

※ 猪名川流域は、ダム下流の上池田地点雨量を使用しております。

(出典:国土交通省水文水質データベース)

4. 関西管内の主な出来事

関西管内における主な出来事をお知らせします。

- 2月28日(土)：大戸川ダム対策協議会が日吉ダムを視察
- 3月3日(火)：水機構関西管内技術伝承会（関西支社）を開催
 - 16日(月)：近畿地方整備局失敗事例研究会に参加
 - 17日～4月15日：H27年度管理費負担金（実施計画）利水者説明
 - 20日(金)：正蓮寺川総合整備推進協議委員会
 - 20日(金)：日吉ダム冷濁水対策委員会
 - 26日(木)：川上ダム自然環境保全委員会
- 4月1日(水)：水資源機構関西・吉野川支社発足
 - 1日(水)：高山ダム、日吉ダムドローダウン開始（以後、他ダムも順次実施）
 - 17日(金)：布目ダム一般利用施設等安全点検（以後、他ダムも順次実施）
 - 22日(水)：淀川水系流域委員会【専門家委員会】（近畿地整）
 - 22日～5月15日：一庫ダムで鯉のぼりを掲揚
 - 23日(木)：川上ダム建設促進期成同盟会総会（伊賀市：青山ハーモニーフォレスト）
 - 23日(木)：全国ダム建設所長会議（川上ダムから長寿命化容量について発表）
 - 24日(金)：淀川水系流域委員会【地域委員会】（近畿地整）
 - 25日～5月6日：比奈知ダムで鯉のぼりを掲揚
 - 30日(木)：日吉ダム放流連絡会（以後、他ダムも順次実施）
- 5月11日(月)：大阪府水防協議会に参加
 - 12日(火)：一庫ダムにて土砂還元・フラッシュ放流
 - 13日(水)：土木学会関西支部総会・講演会に参加
 - 14日(木)：青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダムにてフラッシュ放流
 - 17日(日)：一庫ダムで環境学習の一環として稚鮎放流体験を実施
 - 18日～19日：管内7ダムを対象とした洪水対応演習を実施
 - 19日(火)：土木学会水工学委員会環境水理部会が日吉ダムを視察
 - 27日(水)：平成28年度新規採用者向け就職説明会を開催（関西・吉野川支社）
 - 29日(金)：京都府防災会議・国民保護会議に参加
 - 30日(土)：土木学会関西支部年次学術講演会に参加
 - 31日(日)：淀川水防・大阪府地域防災総合演習に参加

5. 利水者をはじめとする関係者の皆様へ

4月1日より関西・吉野川支社淀川本部利水者サービス課長として着任しております、宮川と申します。

入社以来、関西では2事業の建設、1事業の管理に関わってきましたが、支社での勤めは初めてであります。上流の水源地である現場から下流で水を利用いただいている皆様の声を聞きやすい都会に出て参りました。視野を広げ皆様の声に耳を傾け業務に当たりたいと考えております。

平成15年10月の独立行政法人水資源機構の発足に伴い、関西支社においては利水者サービス課を新設し既に11年半経過致しました。この4月から関西・吉野川支社となりましたが、皆様には、「利水者サービス課」という組織をすっかり認知して頂いていることと思います。独立行政法人改革を通し当機構を取り巻く状況は依然厳しいものがありますが、利水者の皆様におかれても財政を含めた組織運営の厳しさについては同様かと思いません。これまで「利水者サービス課」は、利水者をはじめとする関係者の皆様へのサービスの窓口課としては、当機構の「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念のもと、皆様との緊密な関係の構築のため、積極的な情報発信や意見交換の実施に努めて参りました。今後も皆様の要望・意見を把握し、このフォローアップにより相互理解を深め一層のサービス向上を目指したいと思っております。

「水レター」は、皆様への情報発信のツールのひとつとして引き続き発行し、多くの方に目を通して頂けるよう努めて参りますので、ご一読下さいますようお願い申し上げます。また、こちらの情報に関し、ご意見、ご質問があれば、利水者サービス課へご連絡ください。

引き続き、淀川本部管内における水資源機構の業務に対し、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

(利水者サービス課長 みやがわ 宮川 しょうぞう 省三)

6. 独立行政法人通則法の改正

平成26年6月6日に「独立行政法人通則法の一部を改正する法律案」及び「独立行政法人通則法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律案」が可決され、本年4月1日より施行されました。以下、簡単にその内容と変更点を説明していきます。

(1) 業務の特性を踏まえた法人の分類

① 中期目標管理法人（水資源機構はここに含まれています）

中期的な目標・計画に基づき行うことにより、多様で良質なサービスを提供し公共の利益を増進する法人

② 国立研究開発法人

研究開発が主要な業務で、中長期的な目標・計画に基づき研究開発の最大限の成果

を確保することを目的とした法人

③行政執行法人

国の行政事務と密接に関連した国の相当な関与の下に確実に執行することが求められる事務・事業を、単年度ごとの目標・計画に基づき、正確・確実に行う法人

(2) PDCA サイクルが機能する目標・評価の仕組みの構築

①評価体制の見直し

主務大臣が毎年度、業績評価を実施し、その結果に基づき必要な業務改善命令を行う

②目標設定・評価のあり方

総務大臣が、目標・評価に関する指針を策定し、主務大臣はそれを受けて目標を具体的に設定を行う。

③第三者機関の設置（中期目標管理法人の場合）

総務省に独立行政法人評価制度委員会を設置し、主務大臣による中期目標期間の評価結果、期間終了時の内容をチェックし意見。また中期目標期間終了時の見直しに際し、法人の主要な事務・事業の改廃について、主務大臣に勧告する。

（変更点）特殊法人改革において、当初総務省（政府レベルの評価機関として）と各省に評価機関を設置した。総務省と各省の違いは総務省が全体の評価及び監視であるのに対し、各省は所管法人の評価・監視が目的となっていた。

独立行政法人発足後 10 年以上経過し、その間総務省が独法に対する知見・ノウハウを有していること、評価専門のスタッフがいること及び評価機関との連携がスムーズになることを踏まえ、目標管理の仕組みを適切に運営する上で、総務省に第三者機関（評価制度委員会）を設置するものである。

(3) 法人の内外から業務運営を改善する仕組みの導入

①幹事の機能強化等による法人内部のガバナンス強化

②主務大臣による適材適所の人材登用

③主務大臣による是正措置の整備

通則法が改正されたことによって、水機構と利水者の皆様との関わりが変わったり、皆様への影響を生じさせるものではありません。ただ、これまで以上に職員一同皆様方のために頑張っておりますので、利水者の皆様におかれましても、叱咤激励のほど何卒よろしくお願いいたします。

7. 川上ダム事業実施計画（第3回変更）の認可

川上ダム建設事業は、平成26年8月に「ダム検証」が終了し、改めて川上ダムを建設することが確認されました。これを受け準備を進めてきた結果、平成27年3月31日に国土交通大臣より事業実施計画の変更認可を受けました。

第3回目となる今回の変更内容ですが、事業工期を「平成27年度まで」から「平成34年度まで」に変更しました。また、最新の地質調査結果を反映し、ダム本体の規模（堤体積が「約521千m³」から「約456千m³」に、堤頂長が「約330m」が「334m」に、高さが「90m」から「84m」）を一部変更しました。ダムの目的、貯水池の大きさなど他の項目の変更はありませんが、新たな事業実施計画のもと、1日も早い川上ダム完成を目指して事業を進めてまいります。



変更箇所

項目	変更前	変更後	増減
事業工期	平成27年度まで	平成34年度まで	7年延長
ダム高	90m	84m	-6m
堤頂長	330m	334m	+4m
堤体積	521千m ³	456千m ³	-65千m ³
事業費	1,180億円（変更なし）		

8. 施設見学会のご案内

来る、平成27年6月10日（水）、11日（木）に、淀川本部管内の事業に参画されている利水者並びに関係府県の皆様を対象とした施設見学会（サブタイトル：淀川水源地ツアー）を実施します。

見学場所は、「淀川の水源地域」、「丹生ダム建設所」、「琵琶湖開発施設」です。

昨年度秋に開催しました施設見学会（淀川水源地ツアー）が好評であったため、同じ行程にて、今回、2回目として開催させていただきます。昨年ご参加いただけなかった方々にご参加いただけたら幸いです。

見学会では、普段では立ち入ることができない場所や機械施設などを間近にご覧いただくことができます。

是非とも、この機会に皆様方のご参加をお待ちしております。



石碑「淀川の源」



南湖より琵琶湖を望む

9. 国際大ダム会議で口頭発表決定！！

日本大ダム会議に関西支社（現関西・吉野川支社淀川本部）から提出した論文が、日本大ダム会議が加盟する国際大ダム会議（1928年設立、世界95カ国参加、本部フランスの首都パリ）の第25回大会（平成27年6月ノルウェー（スタヴァンゲル）開催）において口頭発表できる光栄を得ました。併せて、平成25年の台風18号における淀川水系の洪水調節（土木学会技術賞受賞）についても口頭発表（総合技術センター）を行うことになっています。

この会議は、3年毎に開催され4課題の論文を発表・討議するものです。日本大ダム会議のホームページを見ると、日本から国際大ダム会議への論文提出は1933年（関係ないと思いますが、日本初の多目的な重力式コンクリートダム「沖浦ダム」（青森県浅瀬石川）が着工された年でした。）から現在まで約340が提出されています。

今回口頭発表に選ばれた論文は、平成25年9月号の当誌でも紹介した「緊急油圧装置」に関するもので、危機管理上有用な設備として検討から開発するまでの内容です。非常に喜ばしいことですが、英語での発表のため現在奮闘しているところです。

発表の顛末など未知の国での孤軍奮闘ぶりは次号以降の紙面をお借りして報告いたします。

※「大ダム」とは：国際大ダム会議では大ダムを堤高15m以上と規定しています。日本では、ダムを河川法で「堤高15m以上と定義していますので日本のダムは国際的にはすべて大ダムといえるようです。



10. 関西・吉野川支社淀川本部職員の異動情報

関西・吉野川支社淀川本部の顔ぶれが変わりました。引き続きよろしくお願ひします。

【転入者】

役職又は所属	氏名	前役職又は前所属
支社長	神矢 弘	川上ダム建設所長
副支社長（淀川本部長兼務）	森川 一郎	関西支社副支社長
淀川本部次長（総務課長兼務）	上田 豊夫	関西支社総務部総務課長
淀川本部次長（事業課長兼務）	荒谷 慶太	丹生ダム建設所長
利水者サービス課長	宮川 省三	琵琶湖開発総合管理所管理課長
施設管理課長	北牧 正之	関西支社付
設備課長	堀 好彦	中部支社事業部設備課長
設備調整役	中川 政司	関西支社事業部建築課長
設備調整役	藤田 亨	関西支社事業部参事役
総務課	島田 暢之	下久保ダム管理所
総務課	東 大輔	本社経営企画本部
利水者サービス課	松澤 俊一	徳山ダム管理所
施設管理課課長補佐	出水 益夫	朝倉総合事業所寺内ダム管理所所長代理
施設管理課	滝本 雅之	琵琶湖開発総合管理所
計画課課長補佐	永田 勝志	池田総合管理所新宮ダム管理所長
事業課	砂野 洋一	総合技術センター
中津川管理室	三浦 正喜	一庫ダム管理所

【転出者】

役職又は所属	氏名	転出先
支社長	自閑 茂治	本社技師長
総務部長	小出 裕之	木曾川用水総合管理所事業調整役
事業部長	左近 重信	（定年退職）
利水者サービス課長	今井 敬三	本社経営企画本部技術管理室担当課長
施設管理課長	廣瀬 正一	琵琶湖開発総合管理所湖南管理所長
設計環境課長	田野 弘明	総合技術センターマネージャー
設備課長	武田 泰男	（定年退職）
事業部審議役	原 康雅	近畿地方整備局兵庫国道事務所防災情報課長
総務課課長補佐	面家 誠	池田総合管理所
総務課	竹村 尚康	木津川ダム総合管理所
利水者サービス課	内海 敏幸	筑後川局
施設管理課課長補佐	竹澤 秀史	川上ダム建設所環境課長
計画課	藤本 智宏	川上ダム建設所
設計環境課	尾西 昭彦	草木ダム管理所
中津川管理室	脇谷 涉	本社水路事業本部